

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局 ☎227-0045 横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

「日本・ニューイングランド交流の記録」発刊

代表幹事 高木政晃

「日米交流のあけぼの」をテーマとした昨年11月の総会で、もう一つの話題の中心となったのは、待望の「日本・ニューイングランド交流の記録」が発刊されたことでした。

ボストンを軸とするニューイングランドと日本との関係が始まったのは200年前に遡りますが、特に明治維新以降の日本近代化の成功は、ニューイングランドからやって来た知識人、そして青雲の志を抱いて同地に留学した若き日本人たちに多くの部分を負っています。

学問や技術が同地からわが国に流入する一方、日本の伝統美を発見し、それを強力に擁護してきたのもボストン周辺の人たちでした。

これはニューイングランドで生活する機会を得た日本ボストン会の各メンバーが、肌で感じてきたことでしょう。そのメンバーの中から、こうした恩義ある先人の足跡を仕事の合間に調査研究する人たちが出てくるのは当然の成り行きでした。

一昨年10月の会報で、世話人の藤崎博也先生が「日本とニューイングランドの交流の歴史」を出版しようと提案され、続く総会で藤崎博也先生と藤盛紀明氏が中心となって原稿を募ったのは、こうした研究成果と知識を整理して、会員やそれに興味を持つ人に、ニューイングランドとの交流をもたらしたものを再認識していただく機会を、一つにまとめた形で提供しようという意図によるものでした。

結局9名の会員が原稿の執筆に応募したことにより、早速、藤崎博也、藤盛紀明、篠崎史郎、関直彦の4氏をメンバーとする編集委員会が結成されました。一人で2つの記事を書いた人もいたので、11編の原稿が集まり、それにボストン・ジャパン・ソサエティのVernon R. Alden会長から以前に寄せられていた日本とニューイングランドの歴史についてのブリーフを冒頭に加え、本文160ページの立派な本ができあがったのは皆さんご存じのとおりです。

当初はもっと簡単な出版物をと考えていたようですが、藤崎博也先生の研究室の助手たちが手弁当で編集を手伝ってくださったこと、藤盛紀明氏の知人に表紙の絵を描いていただいたこと、そして印刷がかなり安くできることになったために、世に出して恥ずかしくない体裁の書籍とすることができました。

そして、もっと重要なことはその内容のレベルの高さで、各執筆者の力の入れ方が窺われます。読んで意外な知的発見をされた人も多いことでしょう。

日本とニューイングランドとの交流が黒船来航の半世紀以上前にあったことは、これまでの常識を覆すものでした。いかに多くの明治・大正のリーダーたちがボストンで知識を身につけ、一方、ニューイングランドから招聘された学者や文化人がいかに日本に恩恵をもたらしたのか、かつての米国の頭脳はボストンに集中しており、実際、かなり最近までアメリカ各地の大学での教授の(次ページに続く)

日本ボストン会イベント

観桜会 4月2日(日)午後6時
千鳥が淵 2ページ参照

ハイキング 4月22日(土)午後1時
多摩森林科学園 2ページ参照

歴史・ハイキングの会 10-11月予定

ゴルフの会 6月8日(木) 6ページ参照
" 10月26日(木) (予定)

総会・懇親会 平成12年11月10日(金)夕
会報発行 平成12年9月末予定(原稿締切8月末)

" 平成13年3月中旬予定(原稿締切2月中旬)

「日本・ニューイングランド 交流の記録」
(つづき)

地位は、ボストンから来た学者たちに殆ど占められていたとのことです。

戦後もハーバード大学やMITで学び、或いは教鞭をとったり、研究活動に偉大な成果をあげてきた日本人たちが数多くいます。スポーツの分野では、日本ボストン会の仲間である山田敬蔵氏の偉業が、日本・ボストン交流の歴史の流れの中で輝く存在と なっています。また「香道とボストン」もボストン ならではと感ぜられる興味深い話でした。

この紙面を借りて、執筆された方々、刊行にご尽力 いただいた編集委員、そしてご支援いただいた会 員の方々に改めて衷心より感謝を表します。

印刷部数は200冊で、会員に頒布したほかは、ボストン日本総領事館、ボストン日本人会、外務省、 京都ボストン交流の会などの関係諸団体にも寄贈した結果、現在残っているのは、僅か15部程とのこ とです。入手ご希望の方は下記宛にご連絡下さい。

頒布価格 1冊 ¥2390 (含内地送料)

申込み先: 関 直彦 ☎/FAX 03-3722-0554

E-mail naoseki@twics.com

(内容紹介は4~5ページ参照)

ハイキングのお知らせ

(4月22日土曜日)

八王子市の「多摩森林科学園」内の丘陵地のサクラ 保存林を中心に散策します。

同園は57haと敷地広大で、1000種類以上の 樹木があり、特に約250品種を集めるサクラ保存 林が見事です。

緑のサクラや匂いのあるサクラなどの珍種もあり、 丁度見頃と思われれます。丘陵地ですが、道は整備さ れています。

散策の後の食事は高尾山々麓の「うかい鳥山」で 薩摩地鶏や川魚の炭焼きを楽しみます

食事予約の都合もあります。参加される方は4月 10日までに土居、又は篠崎迄お申し込み願います。

集合時間: 2000年4月22日(土) 午後1時

集合場所: JR中央線高尾駅北口改札口

申込先: 土居陽夫自宅 ☎: /

" " FAX: /

篠崎史朗自宅 ☎/FAX: /

2000年大観桜会のご案内

(4月2日日曜日夕方)

春爛漫の一夜を、仲間と一緒に楽しく過ごしませ んか。日本ボストン会の会合は「花よりだんご」の 趣が多いのですが、このお花見の会は先ず千鳥が淵 の咲き乱れた夜桜を楽しむことから始まります。

千鳥が淵は筵を強いての宴会には適しませんが、 ビールか、ワンカップを片手にそぞろ歩くには最高 です。数年前にレディーがワンカップを片手にして 歩くのは如何なものかと言う意見が出て、ワンカッ プの支給を止めようとしたら、プーイングが起きま した。(やはり花よりだんごでしょうかね。)

昨年は29人が参加しました。それまでの小さな イタリアンレストランではなく、宴会の場所を昨年 から九段下のグランドパレスホテルの「バイキン グ」に移しました。「ローストビーフ」で有名なグ リルです。本当においしいローストビーフでした。

参加者のスピーチも盛り上がり、何時の間にか時 間を忘れるほどで、閉会してからもホテルのロビー で何時までも、何時までも語り合いました。

日本ボストン会幹事の篠崎さんはセミプロの写真 家です。昨年のお花見の作品を写真展に出展されま した。素晴らしい出来ばえでした。篠崎さんの撮ら れる写真もこのお花見の楽しみの一つです。

今年の参加費はお酒を飲む人7000円、飲まない人 5500円の予定です。昨年の収入191,000円、支出は 174,330円。繰越金16,670円は今回のお花見の会 の費用に繰越させて戴いております。「千鳥が淵」で お待ちします。次の要領に従ってご参加願います。 お申込みは3月27日までにお願いいたします。

集合時間: 2000年4月2日(日)午後6時(幹事は 6時半迄ホテル前で待っています。)

集合場所: フェアモントホテル前
千代田区九段南2-1-17(千鳥が淵)
(地下鉄九段下駅下車2番出口)

宴会場所: ホテルグランドパレスバイキング(B1)
☎ 03-3264-1111
千代田区飯田橋1-1-1

参加申込先: 藤盛紀明、富美子

自宅電話: /

自宅FAX: (/

会社電話: /